



## しょうとくたいし けんずいし 聖徳太子は、なぜ中国に遣隋使を送ったの



文明国として、中国と対等につきあいながら、中国の文化を取り入れたかったからだよ。

最初の遣隋使が、隋の皇帝からあざ笑われた

隋は、約370年間も分れついていた中国を、589年に統一し、618年まで続いた国です。600年に、日本の使節が、初めて隋に派遣されました。その使節は文帝から、日本の国のようすをきかれて、意味のわからない返事をし、文帝からあざ笑われました。日本は、未開の野ばんな国だ、と思われたのです。この使節は、日本側の記録にはないのですが、中国の歴史書「隋書」の中の「倭国伝」にのっているため、第1回遣隋使と見なされています。

中国と対等につきあいたかった

その後、日本では、立派な宮殿（小墾田宮）・お寺などを建てたり、冠位十二階・十七条の憲法を制定したりして、近代化を進めました。文明国としての形が整うと、聖徳太子は、このことを中国の皇帝に自まんし、中国と対等なつきあいをするために、小野妹子を派遣した、と考えられています。

中国の進んだ文化を、取り入れたかった

聖徳太子が行った近代化には、高句麗・百済から来た技術者やお坊さんが、活躍しました。また、605年に高句麗から仏像を造る費用として黄金300両をおくられるなど、経済援助も受けました。しかし、当時の東アジアで、いちばん文化の発達した国は、やはり中国でした。聖徳太子は、中国と対等につきあいながら、中国の進んだ文化を取り入れたかったようです。

隋の都まで往復するのに、  
約1年かかったそうよ。

